

研究大会開催概要

午前 10:00~12:00

全体会

午後 13:00~16:30

テーマ別研究会

午前

基調提案：大会事務局長 二宮 衆一（和歌山大学）

報告：「日本学童保育学会設立の目的と意義」 石原剛志（静岡大学）

シンポジウム：「学童保育指導員の専門性を考える」

シンポジスト 垣内国光（明星大学） 久田敏彦（大阪教育大学）

堀江恵理子（神奈川/指導員） 葉杖健太郎（兵庫/指導員）

コーディネーター 松浦善満（和歌山大学）

午後

研究テーマ1 学童保育の生活とあそび

運営委員 加用文男（京都教育大学）、札内敏朗（大阪/指導員）、谷口研二（京都/指導員）

報告者 出雲広子（東京/指導員）

あそびは学童期の子どもの成長・発達にとって、とても大切な活動です。そして、あそびは、学童保育の生活の大きな柱です。今回は、学童保育でのあそびの活動を通して、子どもたちの仲間意識をどのように育てていくのかということについて、実践報告と討論の中で、深め合っていこうと考えています。

研究テーマ2 学童保育における子育て・家族支援

運営委員 伊部恭子（佛教大学）、舘優子（大阪/指導員）、清都ひさ子（京都/指導員）

報告者 野村礼子（大阪/指導員）

子どもの成長・発達を保障していこうとする時、子どもとその家族をどう理解し、働きかけていくのかが問われます。学童保育での生活を通して、保護者や子どもの抱えている様々な問題も見えてきます。実践検討をもとに、指導員間での子ども理解と支援の方法をどう一致させ実践していくのか、深め合います。

研究テーマ3 障害のある子どもと

学童保育の生活づくり

運営委員 丸山啓史（京都教育大学）、竹中真美（滋賀/指導員）、中尾光恵（大阪/指導員）

報告者 岩根浩（京都/指導員）

「障害のある子どもをどう理解し対応するか」を考えるだけでなく、“みんなで楽しめるようにどのような遊びを取り入れていくか、差異や失敗におおらかな集団をどう育てるか”（研究誌10より）など障がいのある子どもと周りのこどもとの関係作りや集団づくりに視点をおいて研究していきます。

研究テーマ4 学童保育における生活と集団づくり

運営委員 船越 勝（和歌山大学）、龍野麗子（京都/指導員）、竹中久美子（石川/指導員）

報告者 黄地千早（滋賀/指導員）

学童保育の生活づくりと集団づくりは結合しています。多様で豊かな生活を創造しながら、子どもと子どもの関係性をどうつくっていくかが集団づくりの課題です。子どもたち自らが、互いに安心でき育ちあう集団をつくり、つくり変える主人公に育つには…。指導員の意図的な指導の視点など、実践報告を通して考えます。

研究テーマ5 学童保育実践と記録を考える

運営委員 中山芳一（中国学園大学）、大内理枝（広島/指導員）、森徹（京都/指導員）

報告者 未定（石川/指導員）

各地域で、実践検討会が活発に行われるようになりました。その中で「実践検討会をいかにすすめるか!？」が課題となっています。進行役、さらには検討会に参加する一人ひとりが役割を果たさなければ、充実した検討会にはしていきません。今回は、検討会の参加者がそれぞれの役割を果たすために大切なことを明らかにします。

研究テーマ6 学童保育指導員の資格を考える

運営委員 石原剛志（静岡大学）、賀屋哲男（専門研幹事）、前田美子（専門研幹事）

報告者 住野好久（岡山大学）

学童保育指導員は専門職であり、多くの市町村が採用時に保育士資格・教員免許など有資格を基準にしています。しかし、国は未だ「遊びを指導するもの」として児童福祉法最低基準38条に準ずるとしているのみです。資格研究会の報告を中心に議論を深め、さらに指導員資格の実現の方向性を研究します。